



年次報告書

# 2020 ANNUAL REPORT

2020.4.1 - 2021.3.31



特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

## ごあいさつ

ハート・オブ・ゴールドの2020年度年次報告書をお届けします。

世界中の脅威となっている新型コロナウイルス禍において、日本とカンボジアで活動を止めることなく継続することができました。日頃から支えていただいている多くの皆様あってと、心より感謝申し上げます。

2020年3月の邦人派遣者の緊急帰国から、プノンペンとシェムリアップでは現地スタッフを中心に、各事業を行うこととなりました。感染、治安悪化や経済的な不安をかかえながら、邦人、現地スタッフともにオンラインでのコミュニケーションに不慣れながらも、今できることを考え、相手の意図を汲み、自発的に業務を進めることができるようになりました。以前よりも更にお互いを信頼し任せられることが増え、この一年間で一人ひとりが大きく成長したと感じます。

このたび、ハート・オブ・ゴールド20周年を記念して「カンボジアに体育教育がはじまった」を刊行いたしました。カンボジアの体育科教育支援をテーマに、これまで活動に関わっていただいた方々の想いをまとめています。長いようで短いようで、一つひとつが大切な積み重ねです。

もうしばらく厳しい状況は続くと思われまます。また、世の中は新しい生活様式へと変化しています。ハート・オブ・ゴールドも活動の本質をしっかりと見極め、これからも真摯に活動に取り組んでまいります。

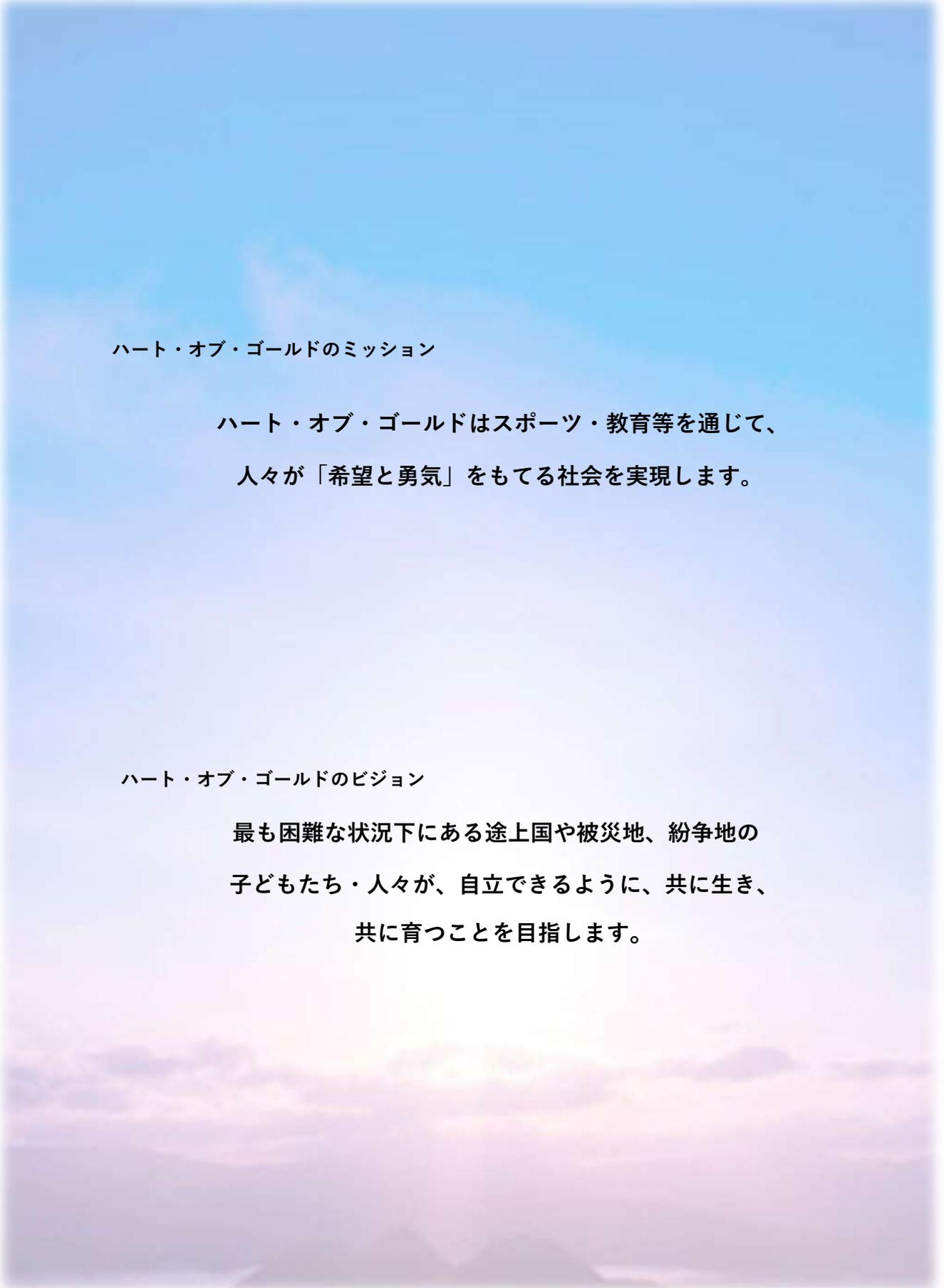
あらためてお礼を申し上げますとともに、引き続きお力添えを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

2021年7月



特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド  
代表理事

有森裕子



ハート・オブ・ゴールドのミッション

ハート・オブ・ゴールドはスポーツ・教育等を通じて、  
人々が「希望と勇気」をもてる社会を実現します。

ハート・オブ・ゴールドのビジョン

最も困難な状況下にある途上国や被災地、紛争地の  
子どもたち・人々が、自立できるように、共に生き、  
共に育つことを目指します。

## 2020 年度事業報告

(自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

### (1) 特定非営利活動に係る事業

| 定款の事業名                                | 事業名  | 主な活動内容  | 実施場所        |
|---------------------------------------|--|---|-------------|
| 国内外における<br>スポーツ大会、<br>イベントの運営<br>協力事業 | アンコールワット国際ハーフ<br>マラソン(AWHM)後援                                      | ・コロナウイルス感染拡大により、2 月に延期し、バーチャルランとして実施。スタディツアーは未実施。   | カンボジア       |
|                                       | スポーツエイド  | ・チャリティマラソン、スポーツイベントの実施・協力   | 日本          |
|                                       | チャリティイベント  | ・チャリティイベントは未実施  |             |
| スポーツを通じた<br>開発支援事業                    | 中学校体育科教育指導書作成・<br>普及事業<br>【JICA 草の根技術協力事業】                         | ・体育参考書作成、オンライン授業作成支援<br>・ナショナルトレーナー評価ワークショップ、認定<br>・教育省への提言書提出  | カンボジア       |
|                                       | NIPES4 年制大学化プロジェクト<br>【外務省 NGO 連携無償資金協力】                           | ・2021 年 3 月より 2 年次事業開始。コロナウイルス感染<br>拡大により活動実績なし。  |             |
|                                       | 小学校から高等学校「Physical<br>Education for All」プロジェクト<br>【JICA 草の根技術協力事業】 | ・2021 年 2 月より事業開始。プロジェクト導入ワークショ<br>ップ開催。  |             |
|                                       | スポーツ施設設置   | ・設置済み浄水器のメンテナンス(クラチェ州)  |             |
| 障がい者支援事業                              | その他  | ・チェイ小学校健康手帳作成事業(日本財団 HEROs<br>助成)完了<br>・2年次体力測定はコロナウイルス感染拡大により延期  | カンボジア       |
|                                       | パラ陸上支援   | ・AWHM に向けたパラランナートレーニング<br>・AWHM バーチャルラン参加   |             |
|                                       | パラ競技会  | ・コロナウイルス感染拡大により次年度に延期<br>・クラウドファンディングによる資金調達  |             |
| 被災地・紛争地<br>における自立・復興<br>支援事業          | かすみがうらマラソン   | ・コロナウイルス感染拡大により中止   | カンボジア<br>日本 |
|                                       | 日本語教育  | ・チェイ小学校(初級:小中高校生対象)は開講延期<br>・HG ももたろう日本語学校(初級・中級:大学生、社会人<br>対象)は、学生数増加、定着<br>・日本での就労・留学。特定技能実習生としての資格取得<br>者(1名)。<br>・日本語能力検定試験(7 月/12 月)は中止<br>・留学支援。岡山学芸館高校・外国語学校が受入協力。 |             |
|                                       | 養護施設(NCCC)運営   | ・孤児や貧困児童の受入れ、里親制度による養育  |             |
| 国際理解・交流<br>事業                         | サービスラーニング(学校教育)  | ・学校への講師派遣、スカイプや ZOOM、文通などの交流<br>を通じた国際協力の実践的学習の場を提供   | 日本<br>カンボジア |
|                                       | 受入事業   | ・インターンの受入れ。本部事務局にて短期受入れ<br>・学生や団体のスタディツアー、ボランティアの受入れは<br>なし   |             |
| その他、当法人の<br>目的を達成する<br>ために必要な事業       | 広報活動   | ・ホームページ、SNS の管理、更新<br>・講演会、報告会、パネル展等の広報活動<br>・「HG 通信」(年 2 回)、年次報告書及び広報資料作成<br>・20 周年記念誌(Booklet 2,「カンボジアに体育教育が<br>はじまった」)作成   | 日本<br>カンボジア |
|                                       | 渉外活動   | ・ネットワーク構築、外部対応など  |             |
|                                       | 調査・研究・情報収集   | ・シンポジウム、国際会議への参加<br>・調査、統計、情報収集、資料整備、分析   |             |

### (2) その他の事業

| 定款の事業分類           | 事業名  | 主な事業内容   | 実施場所 |
|-------------------|------|--|------|
| バザー、その他<br>物品販売事業 | 収益事業 | ・バザー、イベントでのブース出店<br>・オリジナルグッズ企画・販売。新商品マグカップ、<br>マスク。 | 日本   |

## 国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業

|   |                               |   |
|---|-------------------------------|---|
| 事業名   | アンコールワット国際ハーフマラソン／スポーツエイド     |  |
| 支援対象  | 日本国内、及びカンボジアの大会参加者、カンボジア活動対象者 |   |
| <b>活動理由</b><br>アンコールワット国際ハーフマラソンの実現に向けて、日本の有志が日本国内のチャリティマラソン大会から、その資金を集めた。その意志が、現在も引き継がれている。マラソン大会をはじめとしたスポーツイベントが、チャリティを掲げ、ハート・オブ・ゴールドがカンボジアで取り組む活動を支えている。   |                               |   |
| <b>活動概要</b><br>日本、カンボジアともに新型コロナウイルスの影響を受け、多くの大会やイベントが中止となった。<br><b>1. 第10回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国</b> (11月29日)<br>カンボジアの小学校に鉄棒を贈るチャリティ大会。<br>参加者(103名)は、3-12才までの子どもと、その保護者。インラインスケートチーム ALIVEをはじめ、ボランティア約50名参加。開園前の遊園地内を周回するユニークなコースで、リピーターも多い。今大会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、規模を縮小して開催。日頃、十分な運動や遊びができていないこともあり、子どもも保護者も、とても喜んでいて。  遊園地内を走る子ども達<br><b>2. 第25回アンコールワット国際ハーフマラソン</b><br>毎年12月第1日曜日に開催。新型コロナウイルスの影響により、大会を延期していたが、2/6-7にバーチャルランとして実施。 |                               |   |

## 障がい者支援事業

|   |  |   |
|---|--|---|
| 事業名   | 障がい者陸上支援   |  |
| 支援対象  | カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、カンボジアパラリンピック委員会(NPCC) カンボジア障がい者陸上連盟(CPAF) |   |
| <b>活動理由</b><br>障がいを持つ人がスポーツをとおして仲間をつくり、目標を持ち、社会に出ていくことを願って「アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)」に参加する仕組みを作った。そして、同大会で上位に入賞した障がい者ランナーを「かすみがうらマラソン」に招待する等、より多くの大会に参加する機会を提供。<br>また、カンボジアパラリンピック委員会や障がい者陸上連盟とともに、選手のトレーニングのサポートを行う。専門の指導者がいない状況で、トレーニング方法やコーチの指導に関しては、選手育成とあわせ、指導者の育成にも取り組んでいる。   |  |   |
| <b>活動概要</b><br><b>1. AWHM へ向けたトレーニング</b> (10-11月・1月、土曜日、合計10回)<br>プノンペンの障がい者ランナー26名のAWHMに向けたトレーニングをサポート。11月、新型コロナウイルス感染拡大のため一時中断した。<br><b>2. AWHM への参加</b> (2月6-7日)<br>新型コロナウイルス感染拡大のため、AWHMは、バーチャルランとして開催。70名の障がい者ランナーが、プノンペンとシムリアップに分かれ、コーチがそれぞれタイムを計測。<br><b>3. クラウドファンディング</b> (2月4日-3月16日、40日間)<br>パラ陸上競技会の開催資金を集めるために実施。73名の方から、当初目標金額600,000円を大きく上回る948,000円をご支援いただいた。  AWHM プノンペン参加者 |  |   |

## スポーツを通じた開発支援事業

|              |  |   |
|--------------|--|---|
| 事業名          | <b>【JICA 草の根技術協力事業】</b><br><b>カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・普及事業</b>  |  |
| 支援対象         | カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、地方教育局(POE、DOE)、モデル中学校   |   |
| 活動理由         | <p>2006年から11年にわたり、教育・青年・スポーツ省、JICA、筑波大学との連携を図り、学習指導要領の新訂と指導書作成の支援、15州の13教員養成校と33小学校(後に、認定小学校となる)への普及と、同省の自立的普及のための人材育成等を行なった。2015年から中学校体育科教育の支援を開始し、学習指導要領作成支援と人材育成のための事業を実施。2016年12月に学習指導要領が同省により認定され、体育の授業において、7領域20種目を通して「態度、知識、技能、協調性」を教えていくことが明記された。2017年からは、それに沿った指導書の作成支援と普及のためのワークショップやモニタリングを実施。</p>  |   |
| プロジェクト・ゴール   | <p>カンボジアの中学校体育科教育において学習指導要領及び指導書に基づき新しい体育科教育を普及する基礎が確立されるとともに、モデル州・モデル校の関係者が新しい体育科教育を適切に実施できる能力を習得する。</p>  |   |
| 事業成果(2020年度) | <ol style="list-style-type: none"> <li>3領域(フィジカル・フィットネス、器械体操、リズム運動)の参考書、体育用語辞書200部を作成し、印刷配付</li> <li>クメール体操の8時間のオンライン授業の作成、及び放送</li> <li>National Trainer (NTs)12名の育成、及び教育・青年・スポーツ省大臣による認定</li> <li>教育・青年・スポーツ省大臣への今後の体育普及についての提言書の提出</li> </ol>   |   |
| 活動概要         | <p>2020年3月以降、新型コロナウイルスの影響により全学校が休校となり、3領域の参考書の作成、オンライン授業の作成、NTの評価ワークショップ等に事業内容を変更して実施。9月に事業が終了。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>参考書・体育用語辞書作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体ミーティングを2回、フィジカル・フィットネス4回、器械体操8回、リズム運動7回の合計21回のワークショップを実施。</li> <li>9月30日、参考書及び体育用語辞書の最終版(3領域)が完成。</li> <li>参考書、体育用語辞書を各200部印刷し、10月以降、関係機関に配付。</li> </ul> </li> <li><b>オンライン授業作成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>合計13回の撮影を実施。クメール体操の映像8回分を作成した。</li> <li>スポーツ総局のFacebookページにアップロードし、体育のオンライン授業を配信した。</li> </ul> </li> <li><b>NT評価ワークショップ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月2-4日、ナショナル・トレーナー(NT)認定の評価ワークショップを開催。筆記及び実技の試験を実施。</li> <li>DPESS・NIPESスタッフからなるメンバー以外にDPESSから1名が参加し、13名中12名がNTとしての基準点に達して合格。</li> </ul> </li> <li><b>教育・青年・スポーツ省大臣への最終報告</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業終了後、10月22日に大臣への報告を行った。</li> <li>12名のNTには、大臣よりNT認定証書が授与された。</li> <li>HGからプロジェクトの報告と今後の活動計画を説明し、大臣からは体育教育への貢献に対し賛辞をいただいた。</li> </ul> </li> <li><b>JICA 海外協力隊との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>※本事業ではないが、連携事業として実施</li> <li>コロナウイルス感染拡大の影響で一時帰国となっていたJICA海外協力隊員(バタンバン州廣瀬隊員、小林隊員、スヴァイリエン州西原隊員、シアヌークビル州山越隊員、白石隊員)、同OBの齋藤氏に、参考書作成に協力いただいた。</li> </ul> </li> </ol> |   |



参考書に掲載する写真の撮影



NT 認定証書授与

|   |  |  |
|---|--|--|
| 事業名   | <b>【JICA 草の根技術協力事業】</b><br><b>カンボジア王国小学校から高等学校まで全ての生徒が学ぶ「PE for ALL」プロジェクト</b> |  |
| 支援対象  | カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、地方教育局(POE、DOE)、モデル中学校                               |  |
| <b>活動理由</b><br>2006年から教育・青年・スポーツ省と連携し、小学校の学習指導要領、指導書作成と普及を経て、中学校でも同様の事業を実施し、カンボジア体育科教育の支援を行ってきた。また、同省が高等学校の指導要領を独自で作成、配付し、自立的普及も徐々に進んでいる。<br>本事業では、対象3都・州の小学校、中学校、高等学校の全ての学校において、新しい体育実施を目標とし、一貫した体育科教育の普及モデルとする。   |  |  |
| <b>プロジェクト・ゴール</b><br>対象3都・州(プノンペン都、バタンバン州、スヴァイリエン州)の小・中・高等学校において、教育・青年・スポーツ省、各都・州・郡教育局監督の下、学習指導要領及び指導書の内容に沿った新しい体育が実施されている。   |  |  |
| <b>活動概要</b><br>プロジェクトを進めていくメンバーが選出され、委員会が結成された。<br><b>1. プロジェクト説明ワークショップ</b><br>2021年2月15-17日の3日間、プロジェクトの目標、活動、今後の予定を説明するためのワークショップを開催。<br><b>2. プロジェクト報告会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年2月19日にオンラインにて、今までの事業を含むプロジェクトの報告会を実施し、約70名が参加。</li> <li>・ JICA 海外協力隊員(バタンバン州小林隊員)にも参加していただき、現場の状況の報告を行った。</li> </ul> |  |  |



プロジェクト説明ワークショップ開会式

|  |   |  |
|--|---|--|
| 事業名  | <b>【外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業】</b><br><b>カンボジア王国国立体育スポーツ研究所(NIPES)体育科コース4年制大学化事業</b> |  |
| 支援対象   | カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)                                  |  |
| <b>活動理由</b><br>カンボジア教育・青年・スポーツ省が進める教育改革のもと、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士(4年制大学卒業)を取得できるよう、教員養成課程の4年制化を図っている。体育科については、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)において2年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。<br>本事業では、10年にわたりカンボジアの体育科教育の発展に寄与した活動の知見を活かし、先行している他教科の教員養成大学と一貫性のとれた4年制体育大学を設立することを目指す。 |   |  |
| <b>プロジェクト・ゴール</b><br>4年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員とスタッフが育成され、プール、ジムが整備されることによって、NIPESの学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。   |   |  |
| <b>活動概要</b><br>2月12日、在カンボジア日本国大使館で贈与契約署名式が執り行われた。<br><b>1. NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる人材が育成される</b><br>3月に教員マッチアップワークショップを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期。<br><b>2. NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる施設状況が整う</b><br>プール周辺のテラスと建物(1階:男女更衣室、トイレ・シャワー室、事務室、2階:ジム・ルーム)の建設を開始。  |   |  |



1期工事:プール、2期工事:ジムルーム

## 被災地・紛争地における自立・復興支援事業



|  |           |
|--|-----------|
| 事業名  | 日本語教育     |
| 支援対象   | カンボジアの青少年 |
| <p><b>活動理由</b></p> <p>設立当時、貧困家庭の子どもの就職が困難な状況で、アンコール遺跡を有するシェムリアップには日本人観光客が多く訪れるようになり、日本語ができればホテルやレストラン、観光ガイド等の仕事に就くことができた。日本語教育の要望が多く寄せられ、2000年9月にシェムリアップ州の公立チェイ小学校内に無料の日本語教室を開講。これまでに多くの子どもが日本語を学び、自立につながっている。</p> <p>2015年にビルド・ブライト大学(BBU)外国語センターにて、青年を対象に日本語講座を開講し、2019年からはHG ももたろう日本語学校として、日本での就労を視野に入れた日本語教育を行っている。</p>  |           |
| <p><b>活動概要</b></p> <p>HG ももたろう日本語学校は、1-6月、7-12月の2期制。生徒のほとんどが社会人で、仕事をしながら、キャリアアップを目指している。</p> <p><b>1. オンライン授業</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により、カンボジアの全学校が閉鎖となり、オンライン授業に切り替えた。カンボジア人2名、帰国中の日本人1名、計3名の教師により指導している。</p> <p>インターネット設備の改善、オンライン授業で使用するZoomの習得、オンライン向け教材作成など、新たな取り組みを行った。</p> <p><b>2. 日本語能力試験(JLPT)</b></p> <p>新型コロナウイルスの影響により、7月、12月の試験が中止となった。生徒のほとんどが合格を目標にしているが、学習の成果が形となる機会を得られずにいる。</p> <p><b>3. 学校説明会</b></p> <p>技能実習生・特定技能実習生など日本での就労、留学について生徒、及び学習希望者に説明会を開催。あわせて、ハート・オブ・ゴールドの活動やこれまでの日本語教育、卒業生の紹介などを行った。NGOが運営する日本語学校として、一人ひとりの生徒に寄り添い、学習指導によって選択肢を広げ、最良な進路を見つけるサポートを行う。</p> <p><b>4. 人材育成</b></p> <p>2名のカンボジア人教師は、幼いころからハート・オブ・ゴールドの日本語教育を受けた生徒であり、ハート・オブ・ゴールドの活動をよく知ってる。現在の仕事の意義を理解し、またNGO職員としての誇りを持っている。</p> <p>シェムリアップの日本語教師の会合(現在はオンラインで実施)に、2名も参加するようになった。カンボジア人の日本語教師では、初めてという。ネットワークを広げるとともに、今後の更なる成長を期待している。</p> <p><b>5. 日本留学</b></p> <p>岡山学芸館高校の協力により、毎年高校生1名が日本に留学。</p> <p>2019年9月から1年間の予定で留学していたスライホームさんは、新型コロナウイルスの影響により、帰国を延期。岡山学芸館外国語学校に転籍し、特定技能1号(介護)の資格取得に向け、日本語とあわせて、介護の勉強を始めた。11月に「介護技能評価試験」、「介護日本語評価試験」の両試験に初回合格し、日本に滞在しながら送り出し機関、監理団体の正規の手続きを終え、岡山県内の介護施設への就職が内定した。</p> <p>8歳の時にハート・オブ・ゴールドが運営する養護施設に兄や妹と入所し、高校進学と卒業、留学、日本での就職を果たし、経済的な自立ができた。就労条件は日本の労働者と同様である。日本語を学んだことにより、大きなチャンスを得たモデルケースの一つである。</p> |           |



少人数学習による丁寧な指導



日本文化に触れる機会も多い

|   |                                 |           |                |               |                 |
|---|---------------------------------|-----------|----------------|---------------|-----------------|
| 事業名   | 養護施設(ニュー・チャイルド・ケアセンター:NCCC)運営事業 | 1 貧困をなくそう | 3 すべての人に健康と福祉を | 4 質の高い教育をみんなに | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 支援対象  | シェムリアップ近郊の貧困家庭の児童               |           |                |               |                 |
| <b>活動理由</b><br>孤児、家庭での生活が困難な状況の児童を、安心して生活できる環境のもと養育し、就学の機会を与え、貧困の連鎖から抜け出し、自立していけるよう物心両面から支援する。カンボジアの良き市民となる人材を育成する。   |                                 |           |                |               |                 |
| <b>活動概要</b><br>1. 児童数 (のべ 19 名、2021 年 3 月 31 日現在 14 名、うち 1 名日本留学中)<br>退所: 家庭復帰 4 名、就職 1 名 (ともに 8 月)、入所: 3 名 (10 月)<br>2. 生活<br>学校閉鎖となり、センター内だけの生活となった。新型コロナウイルス感染予防に細心の注意をはらい、センターへの出入り制限や手洗い、うがい、マスク着用などの基本的な予防策を徹底した。福祉局から、衛生用品や食料、おもちゃなどの支給があった。<br>規則正しい生活を送るように時間割を作り、掃除、洗濯、食事の用意や畑仕事をスタッフとともに行った。クメール正月とプチュンバン(クメール盆)の里帰りや絵画教室など、楽しみにしている行事も中止となった。<br>新規入所児童が幼いため、センターでの暮らしやルール、身の回りの話などを年長者が積極的に行った。児童の入れ替わりが、単調なセンターでの暮らしに変化をもたらした。<br>3. 教育<br>学校閉鎖の状況を心配する会員の方から、インターネット回線の敷設と PC やタブレットの支援をいただき、オンライン学習が可能となった。年長者は学校からの宿題とオンラインによる自主学習を行い、年少者にはスタッフや年長者が指導している。しかし、長期の休校による学力の低下がとても心配である。 |                                 |           |                |               |                 |



PCが届いた！触るのもドキドキ！



今日は、男の子が後片付け当番

## 国際理解・交流事業

|  |   |           |               |                      |
|--|---|-----------|---------------|----------------------|
| 事業名  | サービスマーケティング(学校教育)                                 | 1 貧困をなくそう | 4 質の高い教育をみんなに | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
| 支援対象   | 日本/小・中・高校、大学      カンボジア/HG ももたろう日本語学校、NCCC、チェイ小学校 |           |               |                      |
| <b>活動理由</b><br>学校が取り組む総合的な学習や国際理解教育、ボランティア活動に協力。スタッフや現地活動者による講演や出前授業、ICTIによる交流や、動画、文通、現地訪問など、様々な手段を活用。そして、交流、実践をとおして、子どもが世界の現状(貧困、環境、平和など)に目を向け、グローバルな視点で国際理解(異文化理解)を深め、多様性の共存や持続可能な開発などについて考え、更に自分理解につなげ、自己の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材育成に寄与する。  |   |           |               |                      |
| <b>活動概要</b><br>SDGsの達成に取り組む教育、ESD(持続可能な開発のための教育)<br>1. 出前授業(18回)<br>実際に活動している人の話により、現地を理解し、自分達にもできる活動を考え、実践した。自分達が支援した募金や物資が、現地に届き、喜ばれ、活用されたことを知ることで、活動の意味を見つけた。<br>岡山市立第三藤田小学校は、教室とNCCCを Skype で結び、互いの自己紹介、岡山の紹介、質問、楽器演奏と合唱を披露。この交流は、相手の顔が見え、声が聞ける貴重な体験となった。また、現地スタッフから直接現地の実状を聞き、必要とされる用具を必要としているところに届けられるよう、募金の使途を考えた。<br>2. 現地受け入れ(新型コロナウイルス感染拡大の影響により、なし) |   |           |               |                      |

## ご支援・ご協力ありがとうございます

新型コロナウイルス禍で終始した2020年度でした。資金不足を危惧していましたが、皆様からの温かいご支援、ご協力のおかげで、滞ることなく活動ができました。誠にありがとうございました。

### ◆ 会 員 517 (個人：475 / 法人・団体：42)

|                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 一般社団法人奈良県経済倶楽部      | グンゼスポーツ株式会社          |
| NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド | 公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク |
| 学校法人森教育学園           | 高野山真言宗千光寺            |
| 株式会社アニモ             | 山陽リビングメディア株式会社       |
| 株式会社JTB岡山支店         | 宗教法人津梁院              |
| 株式会社翌檜              | 宗教法人東漸院              |
| 株式会社アミジョン           | 学校法人 就実学園            |
| 株式会社大手饅頭伊部屋         | 聖運寺                  |
| 株式会社大町              | 瀬戸内温泉たまの湯            |
| 株式会社研美社             | 大光電機株式会社             |
| 株式会社山陽新聞社           | 中央自動車工業株式会社          |
| 株式会社サンラヴィアン         | 天満屋ストア労働組合           |
| 株式会社徳山電機製作所         | ナカシマプロペラ株式会社         |
| 岡山トヨタ自動車株式会社        | 奈良県自動車整備工業協同組合       |
| 株式会社浜谷金属工業所         | 奈良トヨタ自動車株式会社         |
| 株式会社フォレスト・ジャパン      | 日本空港ビルデング株式会社        |
| 株式会社丸五              | 日立建機株式会社             |
| 株式会社マルシン物流          | 富士リアルティ株式会社          |
| 株式会社マルワ電化           | メタウォーター株式会社          |
| 株式会社R I G H T S.    | 宗教法人薬王寺              |
| 木田山宝積寺              | ユニック中四国販売株式会社        |

(敬称略、五十音順)

### ◆ ご寄付・ご協力

※ 5万円以上のご寄付、ご協力をいただいた団体・企業をご紹介します。

|                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| アンコールワット国際ハーフマラソン   | 高野山真言宗南真会          |
| イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン | 大光電機株式会社           |
| 岡山学芸館高等学校           | 大光電機株式会社 有志御一同     |
| 岡山せとうちライオンズクラブ      | 特定非営利活動法人豊かな大地     |
| おもちゃ王国株式会社          | 奈良トヨタ自動車株式会社       |
| 親子チャリティマラソンinおもちゃ王国 | ハート・オブ・ゴールド飯田クラブ   |
| かすみがうらマラソン大会事務局     | 藤沢ロータリークラブ         |
| 株式会社翌檜              | 富士リアルティ株式会社        |
| 株式会社グローバルネットワークス    | みしま西山連邦登山マラソン実行委員会 |
| 株式会社山陽新聞社           | メタウォーター株式会社        |
| 株式会社やまき             | ランプロ/エイコースポーツ      |

(敬称略、五十音順)

個人情報保護のため、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきますが、多くの皆様からご支援をお寄せいただいています。改めてお礼申し上げます。

# 2020年度決算報告

## 活動計算書 (2020.4.1~2021.3.31)

(単位:円)

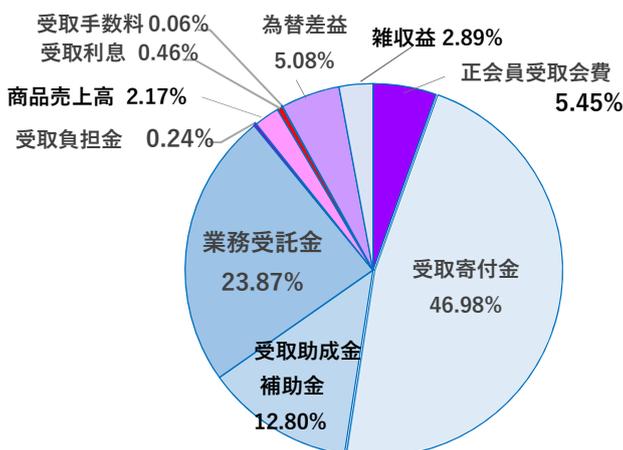
| 科 目                       | 金 額         |
|---------------------------|-------------|
| I. 経常収益                   |             |
| 正 会 員 受 取 会 費             | 2,802,000   |
| 受 取 寄 付 金                 | 24,163,611  |
| 受 取 助 成 金 / 補 助 金         | 6,585,587   |
| 業 務 受 託 金                 | 12,277,774  |
| 受 取 負 担 金                 | 123,680     |
| 商 品 売 上 高                 | 1,116,210   |
| 受 取 利 息                   | 234,164     |
| 受 取 手 数 料                 | 32,200      |
| 為 替 差 益                   | 2,610,703   |
| 雑 収 益                     | 1,488,513   |
| 経 常 収 益 計                 | 51,434,442  |
| II. 経常費用                  |             |
| 1. 事業費                    |             |
| 国内外におけるスポーツ大会・イベントの運営協力事業 | 206,205     |
| スポーツを通じた開発支援事業            | 20,754,323  |
| 障がい者支援事業                  | 775,274     |
| 被災地・紛争地における自立、復興支援事業      | 7,269,632   |
| 国際理解・交流事業                 | 8,570       |
| その他、この法人の目的を達成するために必要な事業  | 6,132,565   |
| その他の活動(収益事業)              | 725,242     |
| 事業管理費経費                   | 11,584,717  |
| 事業費計                      | 47,456,528  |
| 2. 管理費                    |             |
| 管理費経費                     | 9,883,378   |
| 管理費計                      | 9,883,378   |
| 経 常 費 用 計                 | 57,339,906  |
| 当 期 経 常 増 減 額             | △ 5,905,464 |
| III. 経常外収益                |             |
| 経 常 外 収 益 計               | 0           |
| IV. 経常外費用                 |             |
| 経 常 外 費 用 計               | 1,943,780   |
| 経 理 区 分 振 替 額             | 0           |
| 税引前当期正味財産増減               | △ 7,849,244 |
| 法人税、住民税及び事業               | 71,000      |
| 当期正味財産増減額                 | △ 7,920,244 |
| 前期繰越正味財産額                 | 82,130,037  |
| 次期繰越正味財産額                 | 74,209,793  |

## 貸借対照表(2021.3.31現在)

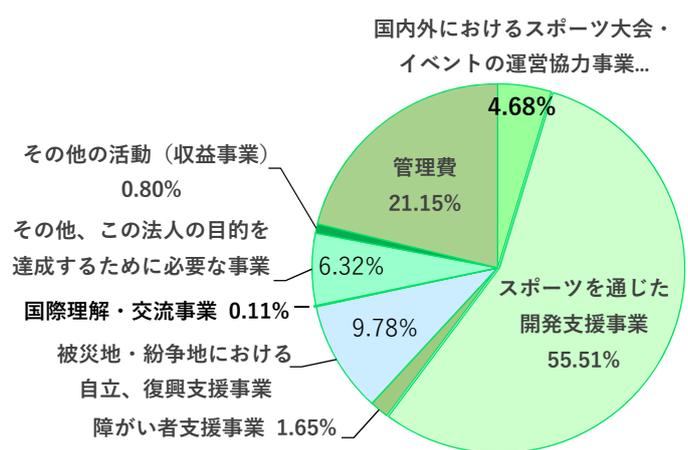
(単位:円)

| 科 目                 | 金 額         |
|---------------------|-------------|
| I 資産の部              |             |
| 1. 流動資産             |             |
| 現 金 預 金             | 56,592,096  |
| 棚 卸 資 産             | 131,158     |
| 貯 蔵 品               | 542,430     |
| そ の 他 流 動 資 産       | 130,468     |
| 前 払 費 用             | 130,468     |
| 流 動 資 産 合 計         | 57,396,152  |
| 2. 固定資産             |             |
| (1) 有形固定資産          |             |
| 車 両 運 搬 具           | 374,401     |
| 什 器 備 品             | 369,457     |
| 有 形 固 定 資 産 計       | 743,858     |
| (2) 投資その他の資産        |             |
| 敷 金                 | 426,104     |
| 事 業 積 立 金           | 56,000,000  |
| 投 資 そ の 他 の 資 産 計   | 56,426,104  |
| 固 定 資 産 合 計         | 57,169,962  |
| 資 産 合 計             | 114,566,114 |
| II 負債の部             |             |
| 1. 流動負債             |             |
| 未 払 金               | 3,225,000   |
| 前 受 金               | 36,124,096  |
| 預 り 金               | 323,925     |
| 未 払 法 人 税 等         | 71,000      |
| 未 払 消 費 税           | 612,300     |
| 流 動 負 債 合 計         | 40,356,321  |
| 負 債 合 計             | 40,356,321  |
| III 正味財産の部          |             |
| 前 期 繰 越 正 味 財 産     | 15,130,037  |
| 事 業 積 立 金           | 67,000,000  |
| 当 期 正 味 財 産 増 減 額   | △ 7,920,244 |
| 正 味 財 産 合 計         | 74,209,793  |
| 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 | 114,566,114 |

### 経常収益内訳 (合計 51,434,442円)



### 経常費用内訳 (合計 57,339,906円)





## 続ける。続けるために。

続ける。誠実であることを。  
日々、課題に向き合い、応える。

続ける。協力し合うことを。  
尊重し合い、多様な知恵と技術で成し遂げる。

続ける。イノベーションすることを。  
しなやかに発想し、挑戦する。

本当に大切なことが続くために。

私の“続ける。続けるために。”

続ける。明日のリサイクルのための提案を。  
循環型社会を支え続けるために。

ごみはリサイクルされればその瞬間から資源です。私はリサイクル施設のメンテナンスを担当するエンジニアとして、できるだけお客さまのニーズをくみ取ってフィードバックしていきたい。それが全国のリサイクル施設の改善につながり、循環型社会を支える助けになればうれしいです。

サービスソリューション事業本部 資源環境事業部  
資源環境技術部

山崎 至紘



### 川崎市 王禅寺処理センター資源化処理施設 点検整備委託業務

ペットボトル、カン、ビンなどの資源ごみをリサイクルするために選別し、圧縮梱包する施設。メタウォーターが施設の設計・建設を行い、現在はメンテナンスを担当している。

山崎は、資源環境事業部のメンバーとして、設備更新の見積もり提案、受注後のプロジェクト管理などを担当。循環型社会の担い手として提案を続けている。

